P-085

肢体不自由児への心理リハビリテーションを介した支援:絵本と音楽の臨床心理学的アプローチ–絵本と音楽のコラボレーション参加者質問紙調査からの一考察–

山本　裕子[1]、増田　梨花[1]
[1]立命館大学大学院　人間科学研究科　博士課程後期課程
[2]立命館大学大学院　人間科学研究科

【目的】
増田（2018）は、双方向を重視した絵本の読み合わせや音楽を対象者が見聴きすることにより副交感神経が優位となりストレス緩和に繋がるとした。この体験は肢体不自由児も同様であると考えた。本研究では、増田が開発した絵本と音楽のコラボレーションに肢体不自由児と共に参加した保護者を対象に、心理リハビリテーションの一つとする絵本と音楽の臨床心理学的アプローチの実態を明らかにする。
【方法】
2017年～2023年の計6回、A協会主催の絵本と音楽のコラボレーションに肢体不自由児と参加した保護者に自由記述式質問紙調査を行った。分析方法は質的帰納的な内容分析を行った。本研究は、絵本と音楽のコラボレーション参加者および協会に対して不利益や参加者個人が特定されないことを説明し、学会発表等の公表について承諾を得た。利益相反に関する開示事項はない。
【結果】
肢体不自由児者の保護者44名の自由記述データを分析対象とした。記述内容を切片化したラベルの総数は92、分類されたカテゴリー数は9、サブカテゴリーは26であった。カテゴリーは【絵本の読み方の発見】【読み合わせと歌い合わせの心温まる素敵な体験】【癒され心地よい】【自分を認め頑張りすぎないことへの気づき】【絵本は生きる力を与えてくれる】【心の中のイメージが広がる】【全員で楽しくイベントに参加】【子どもとの大切な時間の共有】【心の奥に届く読み聞かせを続けていきたい】の9つが生成された。絵本に触れる新たな面白さを捉え、音楽と一緒に絵本を読み合わせることで心身の緊張がほぐれ、日々の頑張りを認め心地よいと実感していた。また、生きる力や心を育てる大切さを捉えていた。〔頑張りすぎず生活を大切にしたい〕などから日常の子育てや介護を振り返る機会となっていた。
【考察】
参加者は絵本と音楽の臨床心理学的なアプローチによりマインドフルな状態へと促され、自分を認めること、無理をしない新しい生き方を発見すること、心身のストレスが軽減されること、豊かな社会情動的な心を育むことにつながることが明らかになった。一方で、肢体不自由児を日常的に子育てや介護する保護者への支援のあり方を検討することが課題とされ、保護者の実態把握の必要性が示唆された。
文献
増田梨花(2018),絵本を用いた臨床心理面接法に関する研究,晃洋書房,pp185-186.

P-086

保育士・保育補助者を対象としたペアレント・トレーニング研修による子どもへの関わり方の変化

秋山　実季、道川　武紘、西脇　祐司
東邦大学医学部社会医学講座　衛生学分野

【背景・目的】
ペアレント・トレーニング（以下、ペアトレ）とは、グループワークやロールプレイ等を通して保護者や養育者が子どもとの関わり方を学ぶプログラムである。令和6年4月から一部改正された児童福祉法にて親子関係形成支援事業が新設され、ペアトレは支援の一例として注目されている。一貫性のある子育て支援を行っていくために、保育現場においても保育士・保育補助者がペアトレを理解することが求められる。今回、単施設の保育士・保育補助者を対象としたペアトレ研修で得られたアンケート調査情報をもとに、研修による子どもへの関わり方を調べた。
【方法】
2023年6月に2日間にわたって単施設でペアトレ研修が実施された。研修はSomLicオリジナルペアレント・トレーニングに基づいて行われた。アンケート調査は研修前、研修後、研修3か月後に実施した。子どもへの関わり方についての質問に4件法で回答を得てスコア化し、研修で扱った内容10項目それぞれと総スコア(10～40点)の平均値の変化を比較した。また、研修の感想について自由記載で回答を得た。さらに、保育で役立つと感じた研修内容について順位付けで回答を得て、1位3点、2位2点、3位1点とし評価した。
【結果】
研修には18人(保育士7人、保育補助者8人、その他3人)が参加した。アンケートへの回答は、研修前 15人、研修後 13人、研修3か月後　11人から得られた。ペアトレについて聞いたこと／学んだことがない者は15人中11人、保護者支援に「やや自信がない」「自信がない」と答えた者は15人中12人であった。総スコアの平均値は研修前　30.6点、研修後 32.5点、研修3か月後 31.5点と推移し、子どもへの関わり方や子どもの反応に変化があったと答えた者は11人中9人であった。最もスコアが改善した項目は「感情的な表現を使わずに、教えることができる」研修前2.9　点、研修3か月後 3.4点であった。また、研修の内容として「ほめ方のステップ」「困った行動への対応」「わかりやすく伝える」の順に保育現場で役立つと感じていた。
【考察・結論】
保育士・保育補助者にペアトレを行うことで子どもへの関わり方に変化がみられた。ペアトレは保育現場でも有用である可能性が示唆された。

Presented by Medical*Online